

省エネは地球にやさしいライフスタイル

所沢市地域省エネルギービジョンを策定しました

市長インタビュー



省エネビジョンを踏まえ 温暖化対策に取り組みます

●地球温暖化問題と省エネビジョンの役割について、お聞かせください。

齋藤市長 地球温暖化の進行により、海面の上昇、異常気象や生態系への影響などが指摘されています。地球温暖化は、今の私たちだけでなく未来の子どもたちや生き物全体のためにも、緊急に取り組むべき課題です。省エネは有効な温暖化対策の一つであり、このビジョンで本市の地域特性にあった省エネ方策をとりまとめました。

これからは、市民・事業者・市が、それぞれの立場で自主的に省エネに取り組むながら、ともに考え、行動する「協働」が大切です。三者で力をあわせ、より良い住環境や自然環境を築いていくことで、誇りに思える風格あるまちづくりを進めていきたいと思っています。

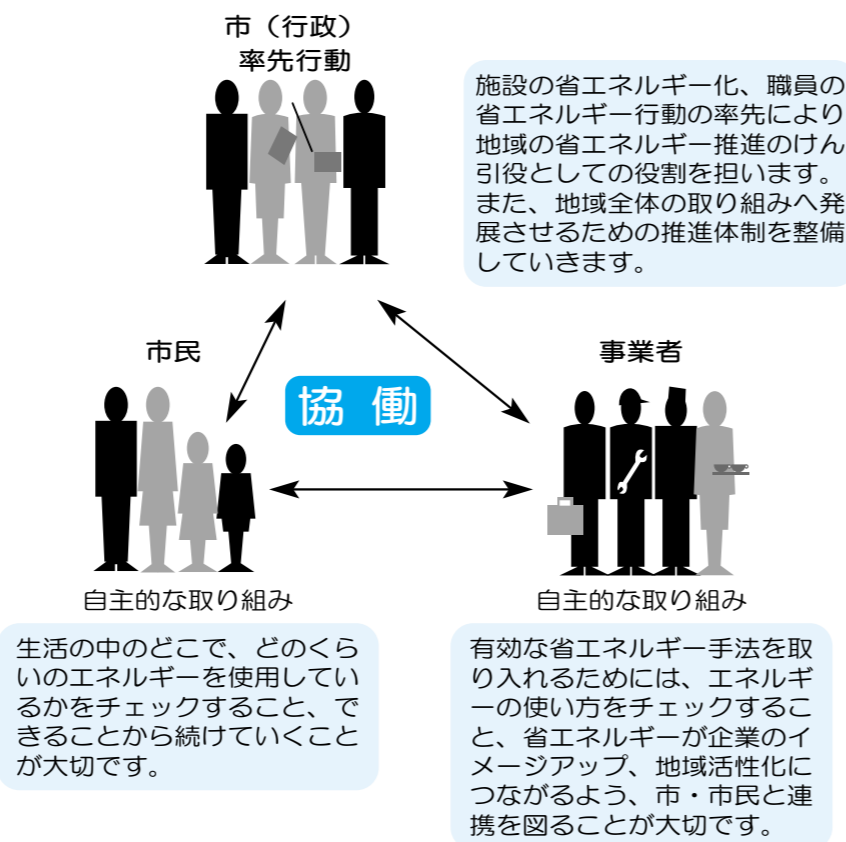
●市の地球温暖化対策・省エネルギーへの取り組みについてお聞かせください。

市長 これまでも市の公共施設を対象とする地球温暖化対策実行計画の策定やISO14001の認証取得等、市をあげて積極的に温暖化対策・省エネに取り組んできました。

今年度は、省エネビジョンを踏まえて、施設改修を計画的に進めるために「公共建築物の修繕・改築計画」の策定も進めています。さらに、省エネビジョンの先導的モデル事業として、県内市町村では初めてのESCO（エスコ）事業を市庁舎に導入します。

この事業は、民間の省エネ専門事業者の方の知識を活用して、光熱費の節約額から省エネの改修費を生み出すものです。厳しい財政状況下でも実現可能な事業として、成果を期待しています。

省エネビジョンの対象と役割



運輸部門における省エネルギー化の推進（重点計画）

- ◆公共交通機関の利用促進
 - ①検討会の設置
 - ②地域特性にあった具調整
- ◆歩くことが楽しい街づくり
- ◆低公害車・低燃費車の導入促進
 - ①公用車への導入促進
 - ②業務車両や自家用車への導入促進
- ◆渋滞の少ない街づくり
- ◆オムニサイクルシティの具体化（自転車利用の促進）
 - 自転車利用の利便性を高める方法の例
 - バス停付設の駐輪場
 - バス
 - 充電所
 - 電気自転車 レンタサイクル
 - 駐輪場
 - 自転車専用レーン
 - 貸出・返却ポート
 - 駅
- ◆エコドライブの普及啓発
 - 急発進・急加速・急ブレーキをやめる
 - タイヤの空気圧を適正に
 - 無駄なアイドリングをやめる
 - 無駄な空ぶかしをやめる
 - 無駄な荷物は積まない
 - 経済速度で走る 一般道路 40km/h程度 高速道路 80km/h程度

市では、地球温暖化対策とエネルギーの有効利用を地域で円滑に進めるため、県内で初めて「所沢市地域省エネルギービジョン（以下省エネビジョン）」を策定しました。この省エネビジョンは、同ビジョン策定委員会による2年間の検討結果を踏まえ、策定したものです。今回は、この計画の具体的な概要について、皆さんにお知らせします。

※問い合わせ先 環境総務課（☎299819133・FAX299819394）

●図1 所沢市の最終エネルギー消費量の推移

年度	運輸部門	業務部門	家庭部門	産業部門
平成2年度	18.5	8.7	9.9	10.3
平成7年度	24.4	11.8	11.9	9.8
平成12年度	27.5	12.0	12.9	7.6
平成22年度	30.3	12.1	16.5	7.6

（ ）内は平成2年度を100としたときの比

●図2 基本方針

- 公共部門 市が率先して省エネルギーに取り組みます
- 家庭部門 家庭におけるスマートライフを推進します
- 産業部門・業務部門 事業所におけるスマートビジネスを推進します
- 運輸部門 運輸部門における省エネルギー化を推進します
- 協働 市民・事業者・市がともに考え、ともに行動します

●図3 省エネルギー目標量

年度	目標削減率
平成12年度	60.0
平成22年度	10.1

（ ）内は平成2年度を100としたときの比

●身近なエネルギーと地球温暖化

エネルギーの使われ方 電気やガス、灯油などのエネルギーは、私たちが生活するうえで欠かすことができません。家の中だけで考えても、照明、冷暖房、給湯、調理等のために、さまざまな機器が使われています。エネルギーは、家の外でも、物を作ったり、車や電車で移動したりするために、さまざまな場面で使われています。

地球温暖化の原因 エネルギーの多くは、石油等のエネルギーに頼っており、地球の気温を上昇させる二酸化炭素等の温室効果ガスを発生させ、地球温暖化の原因となっています。

温暖化を阻止するために 温暖化に歯止めをかけるために、平成9年に国際的な約束（京都議定書）が取り交わされました。この中で日本は、平成20年〜24年の間に、平成2年と比べて、6%の温室効果ガスの削減を求められています。この目標を達成するためには、原油換算で5、700万t分の省エネルギー対策を設定する必要があります。

この削減量は、平成12年度のが国の家庭全体におけるエネルギー消費量に、ほぼ匹敵します。省エネは、国民の共通の課題です。

省エネにチャレンジしよう！

省エネには、さまざまな方法があります。ここで紹介しているのは、ほんの一例ですが、工夫して取り組んでみると、いろいろな発見をすることが出来ます。

- 寒暖は、衣服で調節
- 夏の自然通風
- 使わない部屋の照明は消す
- 自転車の利用

いろいろな省エネの方法

●省エネビジョンの対象と役割

省エネビジョンの対象は、市民・事業者・市です。市全体で省エネを進めるためには、市民・事業者・市がそれぞれの立場で、自主的・積極的に省エネに取り組むことが必要です（省エネビジョンの対象と役割の図参照）。

●運輸部門対策の検討

市では、本年度、運輸部門における省エネ対策を重点的に検討することを予定しており、市民の皆さんの自主的な参加による市民検討委員会も設ける予定です。

●省エネビジョンの具体化に向けて

省エネビジョンの詳細は、市ホームページ（アドレスは表紙参照）でもご覧になれます。このほか、市役所1階・市政情報センター、図書館、リサイクルふれあい館で閲覧できます。

省エネは健康づくり

堀 嘉子さん (美原町在住)

自然の恵みの中で ところざわ豊かに

中村卓二さん (上山口在住)

所沢市くらしの会の会員として、リサイクルなどを中心として、ごみを出さないようにする市民活動を31年間続けてきました。牛乳パックによる小物入れや、古布を使った布ぞうりをつくる講習もしています。

省エネは、電気の節約だけではありません。例えば、車を使わずに歩くことは、お金やガソリンなどの節約にもなりますし、健康を保ち長生きにもつながると思います。

便利さだけを求めず、身近なところからはじめることが大切ですね。

省エネビジョン策定委員会に公募で参加しました。私たちは、必要な情報や知識を自分のものにして、できることから無理なく省エネを実践することが大切だと思います。

私の家では電気・ガス・水道の使用量を平成3年から記録し、月ごとや年ごとに比較し、ムリ・ムダ・ムラをなくしてエネルギーを上手に使う簡素な暮らしを心がけています。

簡素で省エネに配慮した生活は、自然の恵みの中で、心豊かに暮らすことにつながっています。